

杉本氏がヴィオロンの個人情報を特定して恫喝して来たメール(2011年12月6日)

〇〇様、ブログの記事の件につきまして

差出人: sugimotonorihisa sugimotonorihisa (sugimotonorihisa@gmail.com)

送信日時: 2011年12月6日 23:37:24

この〇〇のところには、ヴィオロンの実名が入る。ヴィオロンは自ら実名を公表したことは一度もないので、どのような方法を使ったのかは分からないが、2011年の時点で、杉本氏がすでにヴィオロンの実名を特定していたことを示している。

前略、〇〇様、

吉祥寺の森からの杉本です。

さて、以下、ブログの記事の件につきまして、こちらはあなたが書かれたものであると思いますが、間違いないでしょうか。

<http://exorienteelux.soragoto.net/prestuplenie.html#1-2>

罪と罰——カルト被害者救済活動はなぜ聖書に反するのか

——ブログ「随想 吉祥寺の森から」の著者 杉本徳久氏による
多くのクリスチャンに対する聖書と法に基づかない虚偽の告発と
カルト被害者救済活動が持つ反聖書的な意義についての考察——

著者 ヴィオロン

このような何の事実の裏づけもないでたらめな誹謗中傷を、しかも匿名に隠れて行うというに及んでは、あなたの良識と気概が疑われます。今回のことも知人が知らせてくれて私は知るに至りました。言いたいことがあるならば私に直接連絡してくれば良いこと。また、ブログを書かれた旨、私にも URL を通知なされば宜しいことでしょう。

ここには、またも杉本氏の愛用する罵倒語が並んでいる。一千件のコメントによってヴィオロンをバッシングする記事を自分のブログに掲載しておきながら、それに対する反論は、「何の事実の裏

づけもないでたらめな誹謗中傷」と決めつけ、人が匿名でブログを書くのは本人の自由であるにも関わらず、匿名のブロガーが自分に批判的な記事を掲載すると、早速、「匿名に隠れて」と、まるで匿名であることが悪意であるかのように決めつけるのである。

「良識と気概が疑われます」などと書いてあるが、ここでも相変わらず、杉本氏は、この世の識者代表のように振る舞っている。しかも、「気概が疑われる」とは一体、どういう意味なのであろうか。実名で書いていないから、本気で戦う意思がないという意味なのだろうか？

さらに、言いたいことがあれば、直接、杉本氏に言えば良いとか、ブログを書いたのなら、杉本氏に URL を通知せよ、などと意味不明な要求が並べられている。一千件のコメントの書き込まれたブログ記事で私をバッシングし、次々とクリスチャンの個人情報やブログにさらしては、いわれなく断罪するようなブロガーに直接、アクセスしようと願う人が本当にいると思っているのだろうか。さらに、クリスチャンの誰かがブログを開設したからと言って、なぜ杉本氏に URL を通知せねばならないのか？ そんな義務が誰にあるのか？ 杉本氏はキリスト教界の統治者にでもなったつもりなのだろうか？

何一つしないでいつも創作小説を延々と執筆されるあなたはそれでも何ら、疚しい後ろめたさを感じないのでしょうか。

「創作小説」、この言葉も、村上密氏の愛用語であるから、これも村上密氏と杉本氏とが思想を同じくしていることの一つの証拠と言えよう。私の記事はほとんどが自分自身の経験した事実やクリスチャンとされる人々の著作の分析に基づいて書かれており、創作などではないし、あえて創作の形をとるときには、それなりの必要性がある。その内容は、少しもでたらめな誹謗中傷などではなく、綿密に事実を分析したものである。だが、都合の悪い事実を指摘された杉本氏のような人間の側から見れば、私の書いているものはすべて「創作」であって欲しいのだろう。私のブログが「創作小説」であるという言葉は、村上氏や、杉本氏の願望を示したものであると見られる。

私は聖書に基づき、信念に基づいて、あえて他者の踏み込まない内容に深く踏み込んで、明確に自分の主張を述べている。それは私個人の主張であるばかりでなく、聖書が何と言っているか、このことを明確にすることで、偽りの道を信者から遠ざけ、神の権益を守るために行っていることであり、それが私のクリスチャンとしての「気概」を示すのであり、「疚しい後ろめたさ」など感じていたとすれば、そのような記事はとてでもないが書けない。

名門、〇〇大の博士課程で〇〇を学ばれたあなたがその程度の人間としての基礎的な態度も守れないのでしょうか。

杉本氏はここで、私の出身大学や専門などまで特定している。面識もなく、こちらが伝えたこともないのに、どうやってそこまで人の情報を調べ上げたのであろうか。まるで詮索好きな興信所のように、あれこれ自分の所属教会とは無関係な信者のことを調べあげずにいられない性格が伺える。

「人間としての基礎的な態度」などという言葉も、杉本用語である。人間はみな十人十色であり、人間としての基礎的な態度、というものは、そんな用語自体が存在しないし、何を指しているのかも不明である。さらに、「基礎的な態度」という言葉になると、もっと意味不明である。杉本氏の言いたかったことを通訳するならば、おそらくは「人としての基本的な良識」といった具合になると思うが、それにしても、随分、変な言葉ばかり使う人間だと思う。

また、仮に誰かが杉本氏にとっては気に入らない創作小説を書いたからと言って、なぜその人が「疚しい後ろめたさ」を感じなければならないのか。杉本氏に気に食わない創作小説を書かない人が、「人間としての基礎的な態度」を備えている人間ということになるのだろうか。まるで筋が通らず意味不明である。

私があなただの何を何も知らないと思いますか。知った上で、あなたの精神の状態を思い、こちらもずいぶん和我慢してきているところです。唐沢治問題についても同じ。いったい、あなたは何様のおつもりでしょうか。

こうして、「あなたのことは何でも調べ上げています」とほのめかすことで、杉本氏は相手を威圧しているつもりなのである。他にも色々知っていることはあるが、あえて公表しないでいてやっているんだぞ、だが、おまえの出方次第ではいくらでも公表できるからな、という暗黙の脅しである。「唐沢問題についても同じ」と書かれているが、一体、何を指しているのだろうか。唐沢氏が杉本氏にして来たことの責任をどのような根拠で杉本氏は私に取らせるつもりなのだろうか。「あなたは何様のおつもりでしょうか」という言葉も、文脈を無視して唐突に登場しており、まるで陳腐なドラマの紋切り型の台詞のようである。

世界はあなたを中心に回転しているわけではありません。

すぐにブログ記事を削除なさいませう。

この二文も、全く文脈や関連性が不明である。「世界はあなたを中心に回転しているわけではありません」と、「すぐにブログ記事を削除なさいませう」とが、どうして結びつくのであろうか。それにしても、陳腐なドラマに出て来るヤクザの紋切り型の啖呵のような台詞ばかりで、人を脅すにしても、もっとましな表現は思いつかなかったのであろうか。何が言いたいのかさえ分からないが、それでも頑張って通訳すれば、「こんなに俺にとって目障りな記事ばかりを書きやがって、おまえという人間は頭がいかれているに違いない、俺様をこんなに侮辱しやがって、すべてはおまえの妄想でしかない、一体、おまえは何様のつもりなんだ、おまえのことはすべて調べ上げた、何をしても自分だけは許されると思いがって俺様に盾突いたら、そのうち痛い目に遭うぞ」というくらいの意味なのであろう。

私もそれほど気が長いほうではありませんから、今週一杯しかお待ちいたしません。

人にブログ記事の削除を依頼しながら、ものを頼む態度が完全に欠落している。人を脅した上に、勝手に期限を切っているのである。

あなたは私をラスコーリニコフ呼ばわりされたこともありました。あなたのロシア文学理解はその程度のものでしょうか。ロシアの思想と東方教会の叡智を踏まえた上で、行き着く先があのKFC ルーク唐沢のボディビルディングマッチョイズムですか。少し情けなさすぎると思われます。

杉本氏はラスコーリニコフのことを知らないのだろうか。ラスコーリニコフは殺人の罪は犯したが、己の思想が誤っていると気づき、悔い改めて再出発したのだ。その意味では彼は決して本当の悪人ではない。ラスコーリニコフのように、杉本氏にも悔い改めがあればと筆者は願うのだが、杉本氏にはそのような意図は全く分からないらしい。悔い改めなしに進んで行くと、ネチャーエフやら、スタヴローギンのようになるのであろうか。

杉本氏は「ロシアの思想」や「東方教会の叡智」などと書いており、そうした思想を賞賛しているらしい様子が伺える。だが、私自身は、実際にかの国を知っている人間として、ロシアのキリスト教メシアニズムや、しっかりした教義に対する理解よりも、感覚的な刺激に積極的に身を委ねることを重んじるような、ロシア正教の伝統をあまり肯定的に評価していない。キリスト教の教義について、いかに深い考察と識別が必要であるか、いかに考察ぬきにすべてを受け入れることが危険であるかを学ぶことが出来たのは、論理的な説教を重んじるプロテスタントの信仰の土壌があればこそであった。唐沢氏への嘲笑的な非難の言葉にはコメントはない。当時、私はボディビルやマッチョイズムに傾倒して唐沢氏に接近したわけではなく、信仰的観点から、唐沢氏の主張に賛同していたことは、ブログに記した通りである。

頭を冷やし、長く静かな黙想のうちに、少し自分の来し方行く末を振り返られることでしょう。

なぜ私が杉本氏の言葉に応じて「頭を冷やし」さなければならぬのか。感情的で人を嘲笑したり、罵倒する言葉ばかりを並べて、ヤクザのように人を恫喝する杉本氏こそ、「頭を冷やしねばならない」張本人であろう。クリスチャンを標的に、次々と告発弾劾記事を書いて、多くの人々の名誉を貶めて来た杉本氏こそ、長く静かな黙想のうちに、自分の来し方行く末について憂うべきである。

あまりあなたには同情いたしておりませんので、今回の件、私をあまり侮られませぬよう。

またまた脅し文句である。「おまえには同情するつもりはない。俺様を侮るなよ。俺様の気に入らない記事を即刻削除しなければ、痛い目に遭うぞ」というわけである。

今月は26日までびっしりと障害者施設実習が目一杯入っており、このような下らないことに関わらされるのは、こちらとしても非常にうんざりしております。

それでは。

さすが弱者の救済者の仲間である。自分は社会的弱者のために頑張っていると言いたいのかも知れない。だが、仕事の都合は本件とは何の関係もない。にもかかわらず、自分の生活の必要性から、他人のブログ記事を削除する期限まで勝手に決めて通告して来るのである。「何様のおつもりでしょうか」「世界はあなたを中心に回っているわけではない」との言葉は、まさにそんな杉本氏にこそふさわしいものと思う。

こんな安物のドラマのような紋切り型の脅し文句に満ち溢れた恫喝メールをいわれなく再三に渡り、受け取られる方もうんざりしているのだが、それは言っても無理であろう。そもそも、本件は、私が杉本氏のブログ記事に書き込んだコメントを削除してほしいと依頼したところ、それを逆恨みした杉本氏が、メールとブログ記事でコメント者と一緒になってさんざん私をバッシングしたのが始まりであった。杉本氏が私の依頼をきっかけに私を逆恨みし、大々的に事件を煽り立てたのである。そのように自ら事件に火をつけて果てしなくこれを膨らませておいて、それに反論する他人を恫喝して黙らせようとする卑劣さは同氏には見えないようである。しかも、プロバイダを通じて正規に削除することがかなわず、ブログで反論しても太刀打ちできないと見るや否や、今度はおまえの個人情報を知っているぞ、俺様を侮るなど脅しをかけて来る始末である。とことんヤクザのような反則行為ばかりを繰り返している男である。どうしてきちんと公の場で論敵と対峙しようとししないのか。なぜ筋道立てて、自分の言い分を誰にでも分かるように公に主張せずに、こうした暗闇で相手を罵倒し、脅すような方法ばかり用いるのか。自分は他人を公の場でさんざん感情的にいわれなく非難しておきながら、その人には公の場での反論も許さないなど、あり得ないことであるが、きちんとした議論ができないからこそ、そうなるのであろう。

1800001

武蔵野市吉祥寺北町1-5-14-202

杉本徳久

070150127587